

「映画を創ってみよう!!」実施報告

「想いをカタチに」

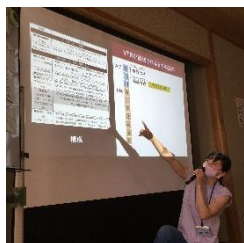
- 趣 旨：子どもたちが映画創りを通して、自分の想いを伝える力や相手の立場に立ち考える力などのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。
- 日 時：①令和3年7月17日(土) 10:00～18日(日) 15:45
②令和3年7月26日(月) 13:00～17:00
- 場 所：国立淡路青少年交流の家、南あわじ市松帆地区公民館
慶野松原をはじめ南あわじ市西部・南西部沿岸地域
- 対 象：小学校4年生～高校3年生 6組(1組5名前後で申込)
- 参加者：①7組35名(小学生 男子 7名、女子 16名)
(中学生 男子 12名、女子 0名)
②4組15名(小学生 男子 5名、女子 5名)
(中学生 男子 5名、女子 0名)
- 講 師：温泉 銀次 氏(株式会社フィールドコム)
今西 沙耶 氏(株式会社フィールドコム)
立田 彩菜 氏(兵庫県立淡路景観園芸学校大学院生)
- ボランティア
伊吹 史也(淡路島牛乳株式会社) 岩崎 栞(大阪工業大学)
中野 雄一(大阪工業大学) 松野 大翔(大阪工業大学)
服部 佑亮(兵庫県立大学) 土居 泉穂(兵庫県立洲本高等学校)
橋本 陽菜(徳島県立城北高等学校)
- プログラムの内容



1日目 ~イメージ作り・撮影・編集~

YouTube や TikTok の影響で動画の撮影や編集を身近に感じているためか、6組の募集に対して3倍の18組の応募があった。学校にも導入された iPad を使ったの撮影・編集というのも応募者多数の一因だったと考えられる。抽選の結果、淡路島内の小中学生7組35名の参加となった。

南あわじ市子ども映画祭への作品出品を見据えた事業として実施することもあり、同映画祭の作品テーマである「南あわじ市の魅力」に沿ったテーマとして、『南あわじ市西部・南西部沿岸地域の魅力』とした。撮影場所を旧西淡町地域の慶野松原、瓦工場、丸山漁港に絞り、豊かな自然や地場産業を通して南あわじ市の魅力を発信する映画創りをしてもらうことをねらいとして設定した。



大本所長の進行による自己紹介を兼ねたチェックインミーティングを行い、参加者たちが楽しみにしていることや不安なことを共有した。その後、講師の温泉氏・今西氏がどんな仕事をしているのかを制作した作品の鑑賞を交えながら説明していただいた。また、講師の立田氏は以前勤務していたテレビ局での仕事の紹介や、取材したVTRが実際に放送されるまでの流れを説明し、これから行う撮影・編集作業のイメージ作りをしていただいた。また、ナルトサワギクやアメリカネナシカズラなど緊急対策外来種や総合対策外来種などは撮影する際に注意が必要であることの注意喚起もしていただいた。

次に、事前課題として描いてもらっていたラフスケッチを基に、撮影をどのように進めるのかを考える時間となった。細かい所まで詰めているグループもあれば、講師の話聞いて軌道修正しているグループもあった。

午後からは慶野松原、瓦工場、丸山漁港へそれぞれの撮影場所に分かれ、撮影を行った。講師の方からグループに1台ずつ iPad を借りていたが、手持ちの iPad や iPhone があれば持ってきてても良いことにしていたので、地面に置いた iPad から撮影したり、2台同時に別アングルから撮影したりして、カメラワークを工夫するグループがあった。

また、撮影した映像を確認し、納得できる映像が撮れるまでやり直しをしているグループも見られ、真夏を思わせる暑さの厳しい中、参加者は元気に撮影を楽しんでいた。



夜は、国立淡路青少年交流の家で、編集作業の説明を受け、編集用の iPad に撮影した映像のデータを集め、短時間だったが動画編集アプリ「InShot」を使って編集作業を行った。

2日目 ~編集・試写会~

今回「InShot」を初めて使った参加者が多い中、予想以上にどのグループもスムーズに作業を進めていた。豊富な BGM から場面に合う曲を選んだり、録音状況が思わしくなかったグループはアフレコを行ったりして音にもこだわり、作品に対する思い入れの強さが窺われた。

ほぼ全グループで9割ほど編集が出来上がった頃、あるグループでデータトラブルが発生し、編集途中のデータが消えてしまった。講師の方やボランティアが必死で復旧作業を試みたが回復せず、残っていたデータを繋ぎ合わせて、何とか試写会に流す映像は用意できた。

午後には、多くの保護者にお越しいただき、試写会を行った。参加者からがんばったことや見どころを紹介してもらい、それを踏まえて作品を鑑賞した。鑑賞後には、「各班の特長がよく出ていた。」「それぞれよく工夫していた。」等の感想が寄せられた。最後に講師の方から「教えていないことまで自分たちで工夫していた。」といった講評をいただいた。短期間で予想以上の作品が出来上がり、充実感に満ち溢れた雰囲気での閉講式を終えることができた。

ただ、データトラブルのことがあり、講師の方たちと相談した結果、後日追加の事業日を設け、完成できなかったグループの救済措置を行うことになった。



追加事業日 ~編集~

データトラブルがあったグループだけでなく、編集の続きをしたい参加者にも声をかけ、15名が参加した。データトラブルがあったグループも何とか作品を完成させることができた。他のグループもアフレコやBGMを追加し、それぞれ満足のいく作品が完成し、事業を終えることができた。

9 参加者の声

- ・話し合えて、しっかり考えて、映画を創れた。
- ・みんなで撮影し、協力できたから楽しかった。
- ・映画を撮ったりするのは初めてだったからうまくできないと思ったけど、うまくできて満足した。
- ・友達と意見を出し合うと、自分の視野が広がり、色々なアイデアがうかぶことがわかった。

10 所感

「映画を創る」という初めてのことに挑戦する1泊2日という限られた時間の中で、この挑戦をすることは参加者にとって楽しみだったが不安も多かったと思われる。そのような中、友達と意見を出し合い、試行錯誤しながら2分間の作品に仕上げるといのは、かなり困難だったはずである。それをどの参加者も楽しみながら乗り越えることができ、友達との絆がより強まったように感じられた。協力することやコミュニケーションの大切さ、困難を乗り越えた時の達成感を得られる本事業の教育的意義を、事業終了後に見せていた満足気な表情から感じ取ることができた。

